

徳島・守護町勝瑞遺跡

溝・基壇状遺構・礎石建物・掘立柱建物などがある。一六世紀中葉の掘立柱建物の柱穴からは、埋納された銅鏡が出土した。

木簡が出土したのは、最終遺構面で検出した溝SD四〇〇一とSD四〇〇二である。SD四〇〇二は一六世紀中葉に位置づけられ、区画溝と考えられる。SD四〇〇一はその切り合い関係から、SD四〇〇一に先行する区画溝である。なお、SD四〇〇一からは舟形や、瓦頭に「毎喜寺」の銘のある軒丸瓦一点も出土している。

所在地	徳島県板野郡藍住町勝瑞字東勝地
調査期間	二〇〇二年（平14）六月～二月
発掘機関	藍住町教育委員会
調査担当者	重見高博
遺跡の種類	寺院跡

遺跡の年代 一五世紀～一六世紀

遺跡及び木簡出土遺構の概要

監住町勝瑞は、室町時代の阿波

藍住町勝瑞は、室町時代の阿波守護細川氏、及び三好氏が本拠とした地である。三好氏の拠点とされる「勝瑞城館跡」は、「勝瑞城

跡」と「勝瑞館跡」からな

り、二〇〇一年一月一九日

に国史跡に指定された。調

査地は、勝瑞城跡の南方二

m南北約三五m、調査面積

は約二〇^mである。

遺構面は大きく五時期に

わたり、検出した遺構には



(德 島)

(1) 「啞旺」

(1) 噎咷唎（符籙）急急如律令𠃍 九九八十一二十九九一六一五

୧୦୩୮

(2) 「×^(オンアラハシャノウ)ミサカミタケナキ★九九八十一二十七四八五

(3) 「アラハシヤノウ」
九九八十一
二十九九一

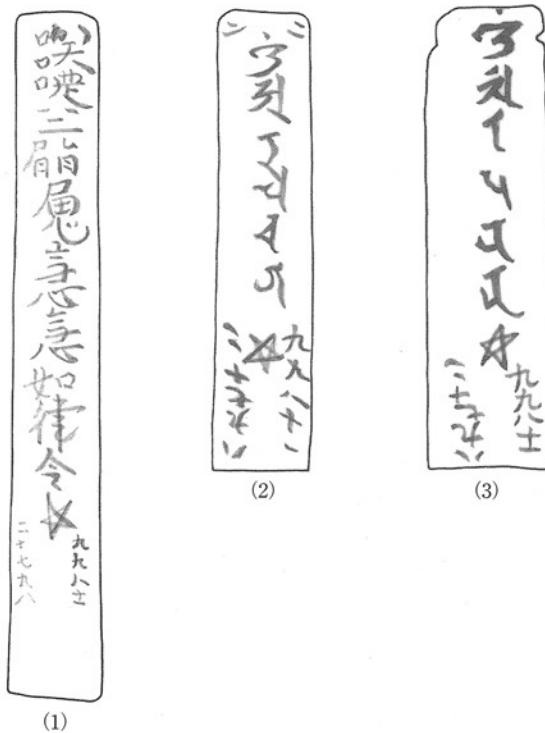
130×27×4 0111

193×25×4 011

(1)は二片が接続し、完形となる。上下は平たく整形する。(2)は完形。頭部の左右の角を切り落としている。冒頭に文殊菩薩を示す梵

字が墨書きされる。(3)も完形。冒頭に文殊菩薩を示す梵字が墨書きされる。

(重見高博)



島根県古代文化センター編集・発行

『山陰古代出土文字資料集成』I（出雲・石見・ 隱岐編）の刊行

本書は、島根県関係の古代出土文字資料を集成した資料集である。

第一部古代出土文字資料集成では、まず文字資料が出土した遺跡ごとに1所在地、2調査機関、3遺跡の概要、4文字資料出土状況、5文字資料の内容、6文献の各項目が記述され、遺跡位置を示した五万分の一地形図を付す。統いて文字資料一覧表として、遺物の種類ごとに（A墨書き土器・文字瓦・木器、B木簡・漆紙文書・銘文大刀）一覧表を掲げ、さらに実測図・写真を掲載する。概ね『木簡研究』のスタイルによりつつ、出土文字資料全般、特に墨書き土器を対象とするために、积文と図版を一覧表化したもので、一つのスタンダードとなり得る体裁といつてよい。

第二部は論考編で、関和彦「蛇喰遺跡と忌部神戸」、野々村安浩「土器記載のへら書き文字についての予察」、森田喜久男「白坏遺跡出土木簡について」、平石充「出雲・隱岐国出土の墨書き土器について」の四編を収録する。

A四版一九〇頁、二二〇〇三年三月刊 頒価二〇〇〇円

申込先 島根県文化財愛護協会（島根県教育庁文化財課内）

TEL〇八五二一三一五八七九